

**将来像や取組みに関する意見について**

	将来像について	取組の方向性について	屋敷林・高木	住宅	農地	活用意識啓発
緑化委員会	「みどりがあってよかった、練馬に住んでよかった」と思えるよう、「みどり」と「暮らし、コミュニティ」が結びついていることが大切	公園緑地だけではなく、道路、河川、民有地も積極的に取組むべき。施策は強弱をつけず、可能性のあるところは進めるべき。	既存の屋敷林をある程度残すような新しい開発を行政が支援する仕組みが必要。	公共施設や民有マンションの屋上緑化を進める。	広い農地は空間として貴重。対応が必要。	みどりがあってよかったという体験を増やすべき。
	緑被率 30%は達成できなくても、少しでもみどりを増やしていくべき。	自然が好きという人だけではなく、一般の方がみどりに親しめる施策が進むとよい	宅地の境界にある高木をどうやって、隣地の方の理解を得ながら守っていくかは、課題である。			制度はどんな媒体や方法でPRするかが重要。
	みどりの機能が、練馬らしく発揮されている状態になっていることが大切。	みどりを保全するには活用がキーだ。	みどりで困っている人と活動したい人をつなげる仕組みが必要			葉っぱい基金の活用について、もっとPRする。
	地域別の違いを踏まえ、公園を含めたみどり空間を考えていくべき	区のみどりの多くを占める民有のみどりへの取組が大事。	所有者は苦情しか聞けない。利用者との交流の場を増やす。			
区政モニター・緑化協力員・みどりの区民会議	緑被率ではなく、将来の人口推計も踏まえ、重要なみどりや必要なみどりを明らかにすべき。	地域のみどりは地域で育てる。	地域のお庭を地域の人を楽しめる事業を広げる。	区民が取組やすい緑化（例みどりのカーテン）をさらに充実させる。	生産者と区民を繋げる場を増やす。	もっと公園を活用したい。利用されていない公園があり、もったいない。
	みどりの効果を踏まえ、必要なみどりを確保するなどしてほしい。	小さいときから、みどりに興味を持たせる。		庭のない人でもガーデニングが楽しめる仕組みをつくる		きれいに管理されないみどりは要らない。
	区民みんなが、みどりが身近に感じられる暮らしが大切。					地域の人に参加しやすい仕組みをたくさんつくる
	地域ごとに必要なみどりは異なる。区内一律の目標だけでない方がいい。					みどりの良さをもっと区民や転入者に伝える
						みどりのボランティア活動をもっと紹介し、やる気が出るようにする。
						ボランティアと管理業者との連携
					区民が設計から管理まで公園づくりに関わる	

